



くわだ まさあき
桑田昌哲議員

自転車運転の安全について問う

議員 自転車は免許不要で誰もが気軽に利用でき、環境にも優しい移動手段である。しかし、交通安全の観点から見ると、事故も多い。本市の事業等を考えるのであれば、しっかりと自転車のルールを守らせていくべきだ。ヘルメット着用や、自転車保険の必要性等をどのように周知していくのか。

市長 保険のPRを行政が行うことは難しい。しかし、自転車による事故の重大性、ヘルメットを被らなければ重症化しやすいということ、そのような自転車の危険性をきっちり啓発していくことによって、ヘルメット着用等の必要性を訴えることにつながっていくのではないかと思う。



森林環境譲与税の活用

議員 森林環境譲与税をいかにメリットのある使い方ができるのか、市の今後の計画についてたずねる。

市長 令和元年度は吉田地区、令和2年度は吉田地区と西大島地区、令和3年度は西大島地区と笠岡地区の森林経営管理の現地調査。令和4年度は吉田地区及び西大島地区の経営管理権取得と笠岡地区の意向調査。令和5年度以降は、森林経営管理制度のみならず、林道の維持管理、市道の交通の支障となるような危険な木の伐採、県産材を活用した木製遊具、木製ベンチ等の整備等、木材利用の推進や普及啓発活動を行い、森林環境税を負担される多くの市民の皆様のご理解と受益につながるような使途で森林環境譲与税を活用していきたい。



おおもと くみつ
大本邦光議員

地域の脱炭素化に向けた取組について問う

議員 消費者の多様なニーズに応えるグリーンライフポイント事業についてたずねる。

市民生活部長 市内企業と連携、追加支援として、グリーンライフポイントがある。市内企業等の既存ポイントにグリーンライフポイントを追加して付与することは、消費者にとっても新たなツールを入れる必要がなく、簡単に始めることができるが、市内企業のポイント導入の把握や、市民の環境に配慮した行動と購入したものなどを確認することが非常に難しく、すぐに実施ということは難しいと考えている。今後、このポイント制度の普及状況と他市の動向等も注視しながら、実施に向けて勉強をしていきたい。



学校等におけるてんかん発作時の対応について問う

議員 保護者が一番心配していることは、授業が終わった後の放課後である。放課後児童クラブ等で過ごす時間帯での、てんかん発作時の対応と体制構築をたずねる。

教育長 放課後児童クラブに在籍をしている配慮の必要な子供については、指導員に対して研修と情報提供を年度当初に行っている。例えば放課後児童クラブにいるときに発作が起こった場合は、放課後児童クラブの指導員が中心になるが、同じ敷地にある学校と連携をして対応することができる。学校で発作が起きた場合、授業中、休み時間、そして放課後児童クラブを含めてしっかりと対応できる体制を今後も取っていききたいと思う。